



懸け橋

練馬区立石神井西中学校
学校だより 第3号
平成28年6月20日
校長 松丸 晴美

「邂逅（かいこう）」

晴天に恵まれた6月4日（土）本校第66回運動会に、ご来賓やご家族、地域の方、卒業生合わせて1300人余りの方が来校され、競技や演技に取り組む生徒達に大きな声援を送ってくださいました。また、早朝より受付や自転車の整理、敷地内パトロールなど、大変な仕事を多くの保護者の皆様にお手伝いいただき、本当にありがとうございました。

生徒の感想からは、勝敗にかかわらず、やり遂げた自信からの達成感や充実感、クラスの仲間との絆の深まり、上級生へのあこがれの気持ちなど、取り組みを通して、運動会という学校行事のねらいを十分に達成できたことが読み取れ、うれしく思っています。しかし一方で、組体操の練習中にケガをしてしまい、競技や演技に参加できなくなってしまった生徒がいたことは、大きな反省事項として、来年度の運動会の種目を見直す必要があると考えています。マスコミ等で報道され、保護者を始め多くの方にご心配をおかけしましたが、今後、生徒の気持ちも大事にしながら検討して参りたいと思います。



運動会の休みがあけた8日（水）には、第1回目の進路説明会がありました。翌週の13日（月）には、都立・私立合わせて3校の高校の先生を招き、お話を聞く会をもちました。3年生は、これから将来の自分の生き方や進路について考え、向き合う時間が多くなってきます。

私自身の中学・高校時代を思い起こしてみますと、テレビドラマや読み物の主人公の在り方、生き方に共感して、将来就きたい職業やなりたい人物像を夢見ていたように思います。本校の先生方に、なぜ今の職業についてのか尋ねたところ、一番多かったのは、学生時代の先生との出会いでした。また、「人に教えることが好き」「学校が好き」「得意なスポーツを教えた」といった自分の得意なことや適性から教職を選んだ先生も多かったです。先日読んだ新聞に「世界有数の建築家である丹下健三さんは、学校の図書室にあった雑誌で、フランスの建築家が設計した一枚の写真を目にしたことがきっかけになって建築家を志した」という記事が掲載されていました。

文芸評論家の亀井勝一郎氏の文学碑に刻まれた「人生 邂逅し 開眼し 瞑目す」という言葉があります。人は、様々な物や事象、人などとの出会いがきっかけとなり、自らの生き方や進む道が閃く瞬間があるのかもしれませんが。

本校では、教科の学習以外に、人権教育講演会、情報モラル教室、高校の先生や卒業生から話を聞く会、留学生や海外青年協力隊員から話を聞く会、高齢者福祉施設や各種職場での体験学習、科学館や博物館などでの校外学習、パラリンピアンによる講演やオリンピック・パラリンピックにかかわる映像学習など・・・様々な教育活動が展開されています。これらの学習が、これからの社会を担っていく生徒達の生き方や進んでいく道を照らす「良き邂逅」の一つになってくれることを願っています。



運動会



石西魂 石西愛

～ 気合・勇気・友情・絆 ～

6月4日(土)は恵まれた青天の下、運動会が行われました。多くの参観があるなかで、生徒たちはこれまでの練習の成果をいかに発揮すべく、全力で競技に取り組んでいました。今年の運動会も気温が上がり、風が強く砂埃も上がる厳しい環境の中で、生徒は負けじと競技に打ち込んでくれました。

また、今年度も3年生の運動会実行委員会が中心となり学級や1、2年生に様々な伝統を伝えてくれました。整列の仕方から、競技のアドバイス、組体操&ダンスの指導、兄弟学級に向けてのメッセージなど、あげればきりがありません。このような1、2年生に伝統を伝えたいという強い思いが、まさに石西魂でした。

また、運動会は実行委員だけでなく、裏方として様々な係が行事を支えてくれているおかげで成り立っています。開閉会式や部活対抗リレーを演奏で盛り上げてくれた吹奏楽部、競技に出る人以上に走り回り道具の準備や雑巾の準備をしてくれた整美委員、大きな声で招集をかけてくれた学級委員、けが人の対処をしてくれた保健委員女子、得点の集計

をし、窓に掲示してくれた給食委員、当日の競技を盛り上げる音楽の編集やアナウンスを担当してくれた報道委員、記録を丁寧にとってくれた図書委員、出発のピストルを鳴らしてくれた生徒会役員、会場のテント張りやロープを引いてくれた会場係と保健委員の男子、そして会場のライン引きから当日の監察・誘導と大車輪の活躍をしてくれた実行委員。他にも係ではなくても石を拾ったり、ゴミを拾ったりしてくれる生徒がたくさんいました。このように一人一人が、行事を成功させようとする前向きな気持ちから石西愛を感じました。

そんな生徒の頑張りから、スローガンである「石西魂 石西愛」を十分に感じることでできた運動会でした。

最後にお子様の体調管理や当日のお手伝いなどで本校の運動会を支えてくださった保護者の皆様並びに来賓や近隣の皆様、本当にありがとうございました。今後も石神井西中学校の活動をあたたかく見守っていただければ幸いです。

(保健体育科 山下 遊)

学年別順位

1 学年	1 位	F 組	2 位 C 組
2 学年	1 位	C 組	2 位 B 組、D 組
3 学年	1 位	F 組	2 位 D 組

色別順位

1 位	C 組 (赤)	2 位 F 組 (桃)
-----	---------	-------------



開会式入場行進



3 年生おおむかひ



部活対抗リレー

『1. 2年生 情報モラル教室を終えて』

6月10日（金）の6校時に1・2年生を対象として情報モラル教室を行いました。KDDIの松岡啓吾さんを講師としてお招きし、主にスマートフォンのトラブルの事例や、安全に使用するためのポイントを、スライドや動画とともに丁寧に説明していただきました。インターネットやSNS、無料通話アプリなど便利な機能がたくさん備わっているスマホには、便利な反面、使い方を誤ったり後先考えずに使用したりすると加害者にも被害者にもなりうる怖さがあるということ学びました。

どの生徒もこの情報モラル教室を通して、普段の使い方を振り返ったり、この先持ったときの注意を考えることができたと思います。また、本校で実施している「石西中SNSルール」を思い出す機会にもなりました。

KDDIからはスマホ・ケータイの安全使用のためのリーフレットもいただき、お子様に配布してあります。ぜひお子様とご覧になり、ご家庭でも使用について話し合う機会がもたれると嬉しく思います。

(1学年副主任 伊藤 友文)

『3年生 人権教育講演会について』

去る15日、3年生を対象に人権教育講演会が行われました。始めに、「生きてます、15歳」のVTRを見ました。たった500グラムで生まれ、未熟児網膜症のため目が見えない井上美由紀さんとお母さんの物語です。アニメーション仕立てでしたが、本人が声を担当していたので、臨場感が増して感じられました。その後、弁護士さんから「憲法と人権」と題したお話を伺いました。「人は生まれながらにして平等な権利を持っている。それは日本国憲法によって保障されている。人権とは何かを考え続けることが大切である。それには、日本国憲法を理解することが必要だ。70歳になるこの憲法は、日本の最高法規であり、内容が変わることなく国民に支えられ

政府の活動を規制している。」という内容でした。

中学生にとっては、かなり抽象的で難しい内容だったかもしれません。



しかし、「人権が憲法によって守られている、日本国憲法は世界に誇るべき憲法である。」という先生のお話は、少なからず3年生の耳に響いたと思います。これから、人権作文コンクールに参加するため、国語の時間に人権についての作文を書く予定です。いろいろな人権について考え、憲法についても触れて書けることを期待しています。

(担当国語科 渡 雅代)

部活動等の記録

陸上部

江東区選手権大会 (5 / 29)

共通女子走幅跳 第4位
記録 4m47 鈴木 葵

共通女子走高跳 第6位
記録 1m38 宮本愛未

共通女子砲丸投 第7位
記録 9m76 長谷川理実

都地域別大会 (6 / 12)

女子西部低学年4×100m 第4位
記録 55秒10 小川、土倉、大野、窪田

卓球部

都春季大会 (6 / 12)

男子団体ベスト32



※写真は普段の活動の様子です。

将棋部

文部科学大臣杯小中学校団体戦東京予選 (5 / 29)

中学校Aクラス 第7位
(A、B両チームとも)

柔道部

73キログ級→都大会進出 (7 / 22)

新体操

板橋区春季団体競技大会 (6 / 11)

DIVA RG 新井彩夏 シニア3年生

種目 ボール 第1位 得点 8.85

種目 フープ 第3位 得点 10.0

お知らせ

◇小中一貫教育研究グループ(石神井西中、石神井西小、立野小、関町小)の取り組み◇

- 6月23日(木)本校1年生の教員が立野小学校6年生に出前授業に行きます。
- 6月24日(金)4校の教員が石神井西小で授業参観後、協議会をもちます。
- 7月9日(土)13:30~本校視聴覚室にて児童生徒会サミットが開かれます。4校の児童会・生徒会がSNSの正しい利用法について発表と話し合いをもちます。

◇各学年行事◇

- 1年生 留学生の話を聞く会 6月28日(火)5,6時間目
オーケストラ鑑賞教室 7月5日(火)練馬文化センター
- 2年生 都学力調査 7月7日(木)1~5時間目
- 3年生 認知症サポーター養成講座 6月29日(水)5,6時間目
税の教室 7月6日(水)5時間目